



## 学内外システムとの連携

### 大学評価情報システムと機関リポジトリ

九州大学附属図書館  
平成17年度CSI委託事業報告交流会  
平成18年5月16日(火)



## 本日の説明内容

1. 大学評価情報システムと  
機関リポジトリの連携
2. 連携のメリット
3. 連携を行う上での課題

## 九州大学学術情報リポジトリ(QIR)概要

- **目的:**  
学内研究成果を蓄積・保存、発信すること
- **URL:**  
<https://qir.kyushu-u.ac.jp>
- **システム:**  
DSpace 1.3.2  
PostgreSQL



## 大学評価情報システム概要

- **目的:**  
各教員の教育・研究・社会連携活動情報の蓄積及び公開
- **URL:**  
<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/>
- **システム:**  
検索エンジンは、XML 型データベース～Shunsaku  
  
(有川教授とその研究グループが開発した「SIGMAエンジン」を基に開発された商用DB)
- **特徴:**
  - ・検索結果の表示が速い
  - ・柔軟な検索が可能

### 公開用HP

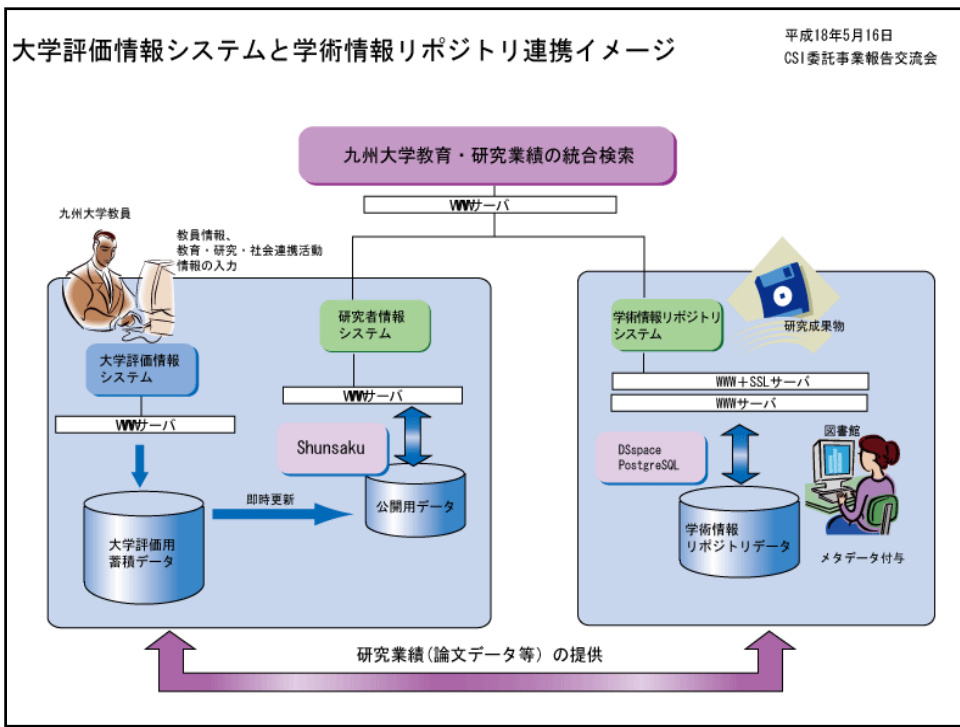
システムに蓄積されたデータの内、公開用データを「研究者情報」として公開



# 連携計画

昨年度より、大学評価情報室と検討を重ねています。

1. 大学評価情報システムと機関リポジトリのデータ共有
2. 学内統合検索
3. 相互リンク

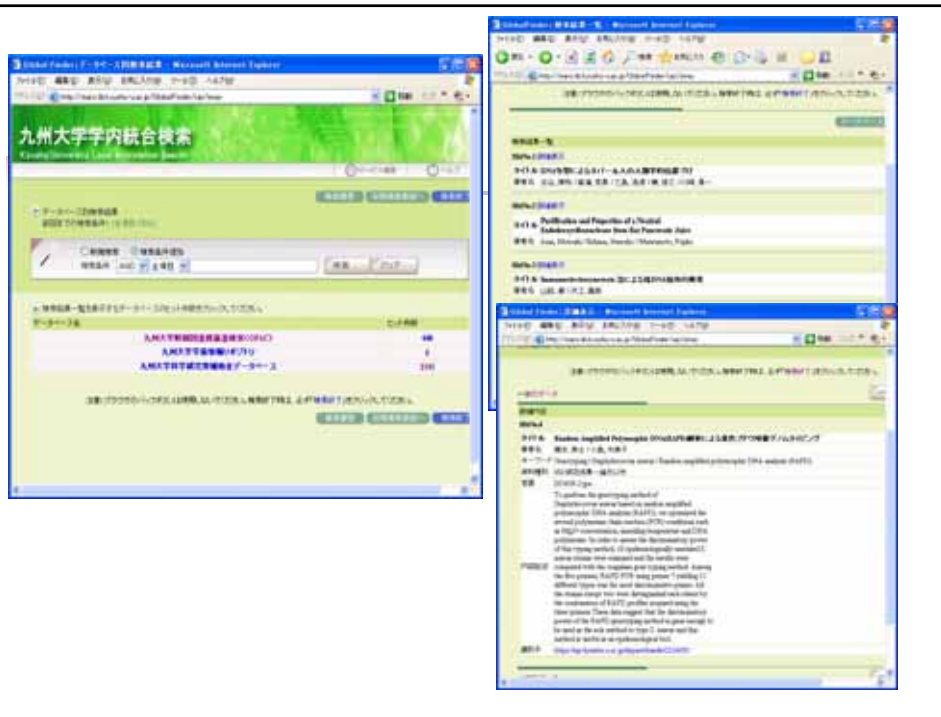


# 学内統合検索

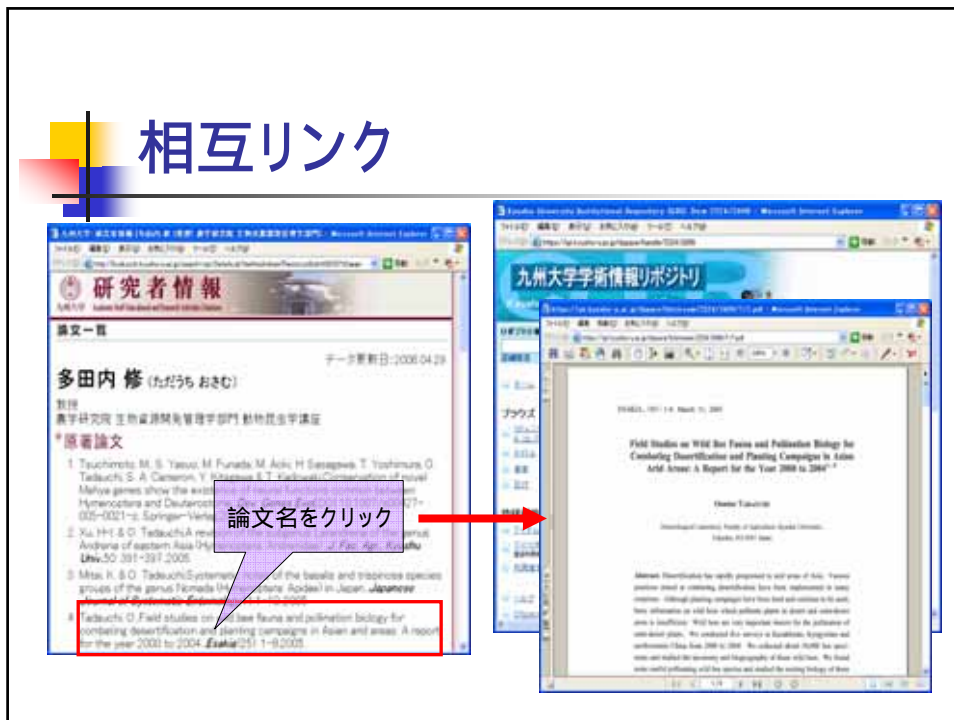
学内の研究・教育業績を一括して統合検索することを実現

\* 図は、H17年度に構築したシステム

今後、「研究者情報」、  
「OCW」等を検索対象にする予定



## 相互リンク



## 連携のメリット

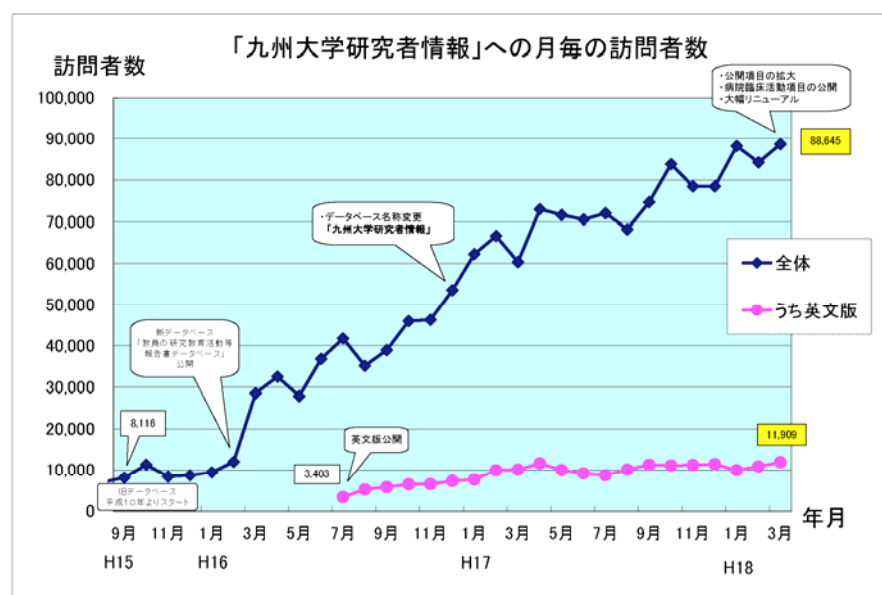
1. 大学の学術情報発信の一元化を実現
2. 研究者のデータ入力負担の軽減
3. 学術情報リポジトリへのデータ登録の促進

# 大学評価情報システムのデータ

大学評価情報システムのデータ保有量(QIRと共有予定データのみ)

	入力人数	総データ数
学会発表等	2297	67153
原著論文	2522	54213
著書	1421	5653
総説・論評・解説・書評・報告書等	1584	13021
作品・ソフトウェア・データベース等	301	565
指導学生のための学会発表等	394	1570
指導学生のための原著論文	277	808
指導学生のための著書	110	93
指導学生のための総説・論評・解説・書評・報告書等	144	186
指導学生のための作品・ソフトウェア・データベース等	88	117
合計		143,379

\* 数字は、システムのデータ保有量であり、大学の論文生産量でないことに注意 平成18年4月現在  
\* メタデータ件数である。



昨年度(H17.4 - H18.3)1年間の訪問者数: **931,993**



## 連携を行う上での課題

1. データ構造の問題
2. 学内統合認証の必要性
3. ユーザ(著者)データの紐付け



## 課題1. データ構造の問題

1. 学術情報リポジトリデータ  
・Dublin Core形式を採用
2. 大学評価情報システムのデータ  
・著者名、雑誌名、巻号等のフィールドにおいて書式がばらばら

## 大学評価情報システムのデータ入力

### 大学評価情報システム「原著論文」 入力画面

The screenshot shows a web-based form for entering original paper information. The form is divided into several sections: '著者氏名' (Author Name), '所属機関' (Affiliation), '論文題目' (Paper Title), '学術データベース名' (Academic Database Name), '論文形態' (Paper Type), '発行年月' (Publication Date), 'キーワード' (Keywords), and '収録誌情報' (Journal Information). The '収録誌情報' section includes fields for '巻' (Volume), '号' (Issue), and 'ページ' (Page).

各入力フィールド内の記述様式は自由なため、教員ごとに使用する区切り記号等が異なる。

例:「巻、号、ページ等」に入力する場合

A氏の記入方法

・第10巻, 528号, pp.303-312

B氏の記入方法

・27(6):625-650

C氏の記入方法

・52 p293-333

連携にあたって大学評価情報システムのデータ整備が必要になる。

大学評価情報室と解決に向けて検討を行っている

## 課題2. 学内統合認証の必要性

1. 大学評価情報システム  
システム固有の認証システムで運用
2. 学術情報リポジトリ  
Dspaceの認証

ユーザにとっていくつものIDを管理するのは大変  
また、OCWなどの同種システムの連携時にも関連する課題である

九州大学で開発中のMIIDによる学内統合認証の検討が始まっている。  
図書館でも検討委員会などで関与している。



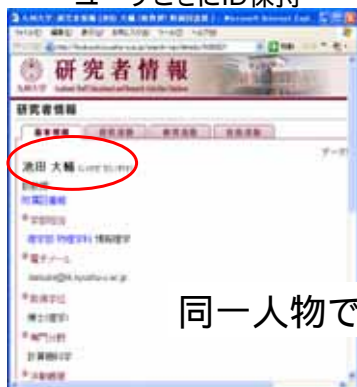
### 課題3. ユーザ(著者)データの紐付け

1. 大学評価情報システム  
研究者(著者)ごとに一意なIDを保持している
2. 学術情報リポジトリ  
各アイテム(論文情報)の著者情報にID  
を保持していない

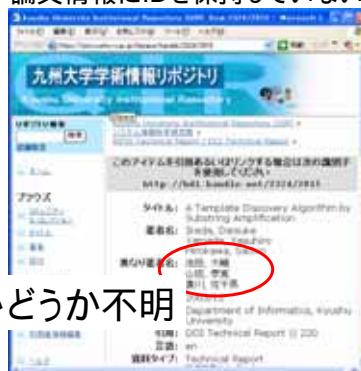
データ受け渡しの完全自動化は難しい

### 研究者(著者)の紐付けができない例

ユーザごとにID保持



論文情報にIDを保持していない



同一人物であるかどうか不明

データを機械的に連結させる場合、共通のユーザIDが必要となる。  
大学評価情報室と解決に向けて検討を行っている